



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和4年12月21日

No.11



12月7日 大宮中学校人権意見発表会&講演会



人権のつとめ

第1部 人権意見発表会の感想

(文章の一部は編集しています)

私も最初は障がい者のことを「かわいそう」と思っていました。でも、人権作文の発表や講演を聞いて、病気とたたかっている人や第二の人生を歩んでいる人がいるのだと分かりました。みんな性格や顔が違うように、みんなと手や耳の形が違ったり、「生き方」が違ったりする人がいると捉えることで、自分と同じように頑張って生きている人なんだな、と思いました。また、障がい者人たちは、なりたくてなった訳ではありません。だから、その人たちを変な見方で差別することは絶対にいけないと思います。そのためには、障がい者のことを知ろうとする姿勢が大切です。私は障がい者ではないので、障がい者の気持ちはよく分かりません。そういう人が増えれば増えるほど差別につながり、障がい者の人の心に傷をつけてしまうかもしれません。だから私は障がい者のことを知り、気持ちを想像しようと思います。そして、みんなが同じように関わり、気持ちよく過ごせる社会にしていきたいです。

4人の作文を聞いて共通することは、特別扱いするのではない、周りとも何も変わらないということだった。望んで目や耳の機能をなくしたんじゃないし、むしろなりたくなかったのかもかもしれない。相手の思いや考えは分からないけど、自分たちと変わらない生活を送っている、ということは頭に入れておかなければいけないと思う。差別・区別しないでいこう・優しく接しよう、ではなくて、同じ時を生きているからお互いの人生を尊重すべきだと思った。一人ひとり違う考えがあって、当たり前があるように、何かが足りない人もいる。作文でもあったけどそれが個性なのだから、何事もなく、普通に接することが一番の思いやりなのかもしれないと思った。

作文発表を聞いて、今までの授業の内容が深まった。特に、「障害」という言葉の意味や使い方を考えさせられた。区別と差別は違うという認識は前からあったが、障害者と健常者という区別も差別に近いのではないかと考えた。他の言い方が見つからないが、安易に口にしないようにしようと思った。また、障害を持つ方への考え方や接し方について考えられた。障害者に限らず、自分と違う環境で過ごしているのだから他人と違うのは当たり前だと思った。普段の行動や発言、考え方など改めようと思った。